

高知市地域の目指すべき姿(産業振興の方向性)

農業分野...平野部では、水稲、野菜、花き等の基幹作物を中心に、より生産性の高い経営体の育成を図るとともに、加工を推進する。中山間地域では、基幹産業として、ユズや四方竹の生産の拡大、加工を促進するとともに、鏡川の源流域としてECO農業を展開するなど、都市部への食料供給基地として、地産地消・地産外商をより一層推進する。酪農を主とした畜産業は、経営安定化に向け、飼料の自給率の向上や牛乳に高い付加価値を付ける取組を進める。

林業分野...「森の工場」を核にして事業体や担い手の育成を図るとともに、森林組合を中心に、建設業者等の異業種の参入・連携による新たな仕組みづくりに取り組むことで、施業地の集約化を促進し、間伐の面的な拡大と素材の増産を図る。また、加工や流通においても、地域が共同して品質の向上やコストの低減などに取り組み、県産材の需要の拡大につなげることで、林業・木材産業の再生を図る。さらには、森林資源の有効利用のため、竹バイオマス等の活用促進に向けた取組を進める。

水産業分野...漁業関係者の所得の向上を図るため、地元の漁獲物や加工品の消費拡大に向けた取組を進める。

商工業分野...中心商店街でのテナシヨップの事業展開への支援などにより、商店街全体の魅力を高める取組を進める。製造業は、付加価値の高い工業製品の開発や、1.5次産業の推進による新たなビジネスの創出、さらには、経営力の強化等に向けた支援を行うことにより、地場産業を育成し、市場の開拓・拡大を図りながら、外貨の獲得を目指す。

観光分野...高知市地域に集中して存在する「高知城」や「桂浜」等の代表的な観光地を中心にしながら、近隣地域で人気のある観光施設やカヌー体験等の体験プログラムの取組とも連携し、多様な魅力ある広域の観光エリアとして、効果的な情報発信を行い、滞在型・体験型観光を積極的に推進する。また、「龍馬伝」の放送、「龍馬博」開催による効果を最大限に生かすべく、全国に誇れる「食」や「よさこい」、「坂本龍馬」などを軸に魅力ある誘客の仕組みづくりを推進していく。

主な指標及び目標

Table with 5 columns: 項目, 計画策定時, 目標, 現状. Rows include 主業農家に占める認定農業者の割合, ショウガの販売額, ユズの販売額, etc.

取組みの成果と今後の方向性

- 観光や農業分野を中心に取組みの効果が具体的に現れ始めている。一方で、足踏み状態のものや事業は動き出したものの目標に達していない取組が見られるなど、項目間で進捗状況に差が出てきている。
●取組の成果
・農業分野...ショウガやユズ等の基幹品目について着実に振興が図られるとともに、新たな加工品の開発・販売の取組が進んでいる。
・観光分野...22年度の龍馬博・龍馬伝の効果もあり、まち歩きや観光遊覧船が貴重な観光資源としてその存在感を増している。
●今後の方向性
○成果が見え始めている取組については、関係者間で認識を共有しながら、より大きな成果が実感できるよう取組を進める。

10.民有林における間伐の推進

取組の内容
建設事業者等の異業種と連携した「森の工場」の推進

主な成果

- H21に森の工場1団地を新設(計2団地で1,174.59ha)
・間伐実績 H21:188.58ha→H22:187.26ha
うち森の工場
H21:16.62ha(素材生産量1,694立方メートル)
うち異業種と連携した間伐3ha。
H22:64.77ha(素材生産量1,987立方メートル)

高性能林業機械導入のための作業道設計・施工管理技術が向上



今後の方向性

- ・コラボレーション型事業の拡大に向けた条件整備

3.ユズを核とした中山間農業の活性化

取組の内容
ユズの生産拡大に向けた担い手の育成と品質の向上等

主な成果

- ・ユズ搾汁施設の改修により加工体制を強化
<H21県産業振興推進総合支援事業等を活用>
⇒搾汁率の向上:16.6%(旧施設)→18.8%
搾汁能力の向上:1.25t(旧施設)→5t/時間
処理量:目標810t→H21実績1,200t→H22実績799t
⇒大口需要者との継続的な取引が実現

地産外商
食品加工

今後の方向性

- ・県版HACCPの取得による信頼性の充実



5.四方竹のブランド化による中山間地域の振興

取組の内容
四方竹の生産拡大に向けた生産・加工体制の整備と販路の拡大等

主な成果

- ・夢産地とさやま開発公社で、四方竹の真空パック商品、二次加工品を開発
<H22県産業振興推進総合支援事業等を活用>
・土佐山地区では、製氷機の導入により品質を保持・向上
・七ツ洲地区では、ボイラー、堆肥舎等の整備により加工体制を強化
<H21、H22県中山間地域集落営農等支援事業を活用>
⇒四方竹の販売額:H19実績3,360万円→H22実績3,982万円(18%増)

地産外商
食品加工

今後の方向性

- ・生産量の増加に対応できる一次加工体制の整備
・ニーズに対応した商品開発と全国に知られるブランドとして育てる
・二次加工品の新たな開発と販売



9.生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出

取組の内容
酪農経営の多角化に向けた生乳加工品の製造・販売等

主な成果

- ・H22.5.15に牧場内に菓子販売店舗がオープンし、シュークリーム、ロールケーキ、プリン等を販売開始。<菓子類の製造機械等はH21県産業振興推進総合支援事業を活用>
⇒販売実績は、売上目標(月120万円)の1/3程度。
・新規雇用2名<ふるさと雇用再生特別基金事業を活用>



今後の方向性

- ・店舗の知名度を上げるための販促活動の充実・強化
・顧客の満足度を高める店舗運営

20.中心商店街でのテナシヨップの運営

取組の内容
県産品テナシヨップを核とした中心商店街の活性化等

主な成果

- ・H22.2.19県産品テナシヨップ「てんこす」がオープン
<H21～国・県・高知市の補助金を活用>
・県内の市町村から集めた約1,500点を超える商品を陳列・販売
⇒販売実績は、1年目は目標(244千円/日)とする水準で推移
2年目は目標(292千円/日)の約89%で推移



今後の方向性

- ・店舗としての魅力度アップ
・更なる周辺商店街への波及効果の発揮
・コミュニティ事業の講座の充実

7.春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上

取組の内容
民間事業者と春野地区の農業者との連携による農産加工品の開発・販売

主な成果

- ・パスタソース、ジンジャーエール、ピクルス等3種類9アイテムを商品化

地産外商
食品加工

今後の方向性

- ・加工用トマト等の安定生産
・一層の販路開拓
・より競争力のある商品開発



30.「龍馬伝」を契機とした観光の振興(まち歩き)

取組の内容
「まちあるき」の魅力向上等

主な成果

- ・龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～(6コース)をコース化し、H21.10月から開始
⇒土佐観光ガイドボランティア協会による龍馬関連のまち歩きガイド
H22.1月から12月の累計:18,415人(うち土佐っ歩3,342人)
H23.1月から6月の累計:1,220人(うち土佐っ歩945人)
・H23.4月から「土佐っ歩」6コースをリニューアル、特別コース2コースを新設



今後の方向性

- ・まち歩きの更なる魅力向上と団体客の確保

四方竹のブランド化による中山間地域の振興

ユズを核とした中山間農業の活性化

生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出

中心商店街でのテナシヨップの運営

「龍馬伝」を契機とした観光の振興

稲ホールクローブサイレージを核にした耕畜連携の推進と二期作文化の復活

春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上

「龍馬伝」を契機とした観光の振興

8.稲ホールクローブサイレージを核にした耕畜連携の推進と二期作文化の復活

取組の内容

稲作農家と酪農家との連携による発酵粗飼料の生産体制の確立と利用拡大

主な成果

- ・飼料専用コンバインや自走式ラッピングマシン等の導入により飼料稲等の生産面積を拡大<H21県産業振興推進総合支援事業等を活用>
⇒H20:14.3ha(介良地区)
H21:19ha(介良地区)
H22:33.48ha(介良地区、五台山地区、布師田地区)
⇒水田跡での飼料作物(ソルゴー)の試験栽培 H22:3.83haから本格栽培へ H23:10ha



今後の方向性

- ・酪農家と耕種農家の双方にメリットが高い仕組みの構築

30.「龍馬伝」を契機とした観光の振興(観光遊覧船)

取組の内容

「観光遊覧船」の魅力向上等

主な成果

- ・観光遊覧船の3隻目を導入<H21県産業振興推進総合支援事業等の活用>
※H22.3月から運航開始。これにより最大乗船人数が24人から36人に増加し、一度に団体客の受け入れが可能に
・専従職員4名を配置<うち3名はふるさと雇用再生特別基金事業を活用>
・H22.7月から平日運行を団体客から個人客・小グループ客にも拡大
・H22.12月から御豊瀬漁港への寄港、宿泊施設とタイアップした企画遊覧「遊覧船 de 釣り三昧」を開始
・これまでの取り組みが評価され、第25回県地場産業大賞の産業振興計画賞を受賞
⇒乗船客数 H21:3,765人→H22:5,897人→H23.1～6:2,101人



今後の方向性

- ・多様なニーズに対応できる団体客向けの企画商品づくり
・団体客の誘致のための旅行代理店等への売り込み